

# 世間解

第三八六号

令和二年 四月

発行 西法寺

## 念仏もうさるべし

― たじろぐのであります ―

春・四月であります。世情穏やかならざる状 況が続いています。皆さまにはご本願のおはたらきの中「なんまんだぶ、なんまんだぶ…」とお念仏ご相続のこゝと存じます。

『如来所以興出世』といふは、諸仏の世に出でたまふゆゑはと申すみのりなり。「唯説弥陀本願海」と申すは、諸仏の世に出でたまふ本懐は、ひとへに弥陀の願海一乗のみのりを説かんとなり。しかれば、『大經』(上)には、

「如来所以 興出於世 欲拯群萌 惠以真実之利」と説きたまへり。

「如来所以興出於世」は、「如来」と申すは諸仏と申すなり。「所以」といふはゆゑといふみことなり。「興出於世」といふは世に仏出でたまふと申すみことなり。

「欲拯群萌」は、「欲」といふはおぼしめすとなり。「拯」はすくはんとな

り。「群萌」はよろづの衆生をすくはんとおぼしめすとなり。仏の世に出でたま

ふゆゑは、弥陀の御ちかひを説きてよろづの衆生をたすけすくはんとおぼしめすとするべし。『これは親鸞聖人がお書き残しをくださった』『尊号真像銘文』とい

うお書物の一節で、親鸞聖人ご自身がご自身のおつくり残しくださった

「正信念仏偈」の御文をご解釈をくださったところ。何度も原文をお読み

ただくのが一番よいのですが、ざっとその意味をお聞かせをいただきますと

『お釈迦さまやあらゆる如来さまが、娑婆にお出ましくくださる本當の理由は、色

んな事柄にあい色んな思いを持って迷っていかねばならない所に“いのち”恵ま

れている我々にへ一切の“いのち”を決して漏らすことなく支え、育てて必ず

覚りの身にしてみせる」という阿弥陀さまの救いのおはたらきのあることをお知

らせくださる為でありました。ですから真実の教である『仏説無量壽經』には

「如来所以 興出於世 欲拯群萌 惠以真実之利」とお説きくださっているの

す。すなわちお釈迦さまやあらゆる如来さまがこの世にお出ましくくださるのは阿弥陀さまのご本願の救いがあることを私たちに説き示し、阿弥陀さまのご本願のおはたらきによって一切の生きとし生けるものが漏れることなく救われるという本願の念仏の救いを私に知らせる。すべての如来さまの出現はひとえにそのためでありました。』というようになりましょうか。

平成三十年にご往生になられた 大峯顯という先生がおられました。

二十数年前に津村別院で『：前に、家を改装することになって半年ほどご本堂で寝起きさせていただいたことがありました。ある日、夜中にトイレに行きたくなつて目を覚ましました。フツと阿弥陀さまを見上げると昨夜私が寝かせていたただく時と全く同じお相で、同じお顔でお立ちくださっていました。』というようなお話しをお聞かせいただいたことがありました。その時はあまり何とも思わなかったのですが、いまは“阿弥陀さまはお覚りが完成して、私を救いきってください”ことに何の疑いもお持ちでないから、何があっても“たじろぐ”ことがないから同じお顔でおつてくださるんだらうな”と味わわせていただいております。

私は色んな事にあう度に、それが思いがけないことであればあるほど、“たじ

ろぎ” “おたおた” し“ジタバタ”するのであります。

その“おたおた”や“ジタバタ”を無くしてこい！打ち勝つてこい！そうすれば救ってやる。』という阿弥陀さまであれば私にはきつと最後は絶望しかありません。そうではありません。色んな事がやってくるぞ、その中で精一杯それと向き

合いなさい。“おたおた”や“おろおろ”や“ジタバタ”しながらへあきらめる

のでもへ投げやりになるのでもなく精一杯それと向き合い、色んな事を乗りきり

ながら大切な“いのち”を生きてくるんだよ。何があっても必ず支えているよ。という救いのおはたらきであります。そのおはたらきが私にお念仏させてく

ださっている。『お釈迦さまがお念仏の教えを説くためにこの世にお出ましく下さ

ったのなら、私はお念仏の教えを聞くためにこの世に生まれさせていだいたんだといわねばならんでしようね』 梯實圓和上のお言葉であります。安心して“た

じろぎ” “おたおた” し“ジタバタ”させていただけのお念仏の世界があつてくだ

さるのであります。